

第1回神栖市地域医療体制検討委員会サマリー

- 1 日時・場所 令和元年7月2日(火) 19:00～21:00
神栖市保健・福祉会館研修室
- 2 出席者 出席者 委員13人 随行者3人 市 8人
(別紙名簿のとおり)

3 委員会結果

- (1) 市長あいさつの後、委員の自己紹介を行った。

その後、当委員会の情報公開の扱い方について合意がなされた。

[合意内容]

- ・公開は頭撮りまでとし、協議時は非公開。終了後のぶらさがり取材は、委員長又は事務局が対応する。
- ・サマリーを作成し、後日出席委員に確認のうえ、了解が得られたものを公開する。

- (2) 永井委員長が座長を務め、次第に従って、議事が進められた。

議題の中の「神栖市地域医療体制検討事業(目的/スケジュール)」「今年度の調査の進め方」については、事務局の説明があり、原案どおりとすることが了承された。

神栖市の医療体制の現状について、現時点で事務局が収集した資料を基に説明がなされた。

初回会合であることから、キックオフ的なディスカッションとして、各委員が感じている神栖市の医療体制に係る課題認識等について意見発表が行われた。

- (3) あいさつ、自己紹介、ディスカッションを通じての主な意見は次のとおり。

① 委員会の設置、参加に当たって

「当検討委員会は、神栖市の急性期医療から慢性期、回復期、在宅医療までの現状を分析し、課題を洗い出すとともに、あるべき姿、望ましい姿を実現するための対策等を取りまとめたことでの目的で設置したもの。現状の課題を打破していけるよう、地域全体で環境づくりを進めていきたいので、当委員会でのご審議をお願いしたい」とのあいさつの後、各委員それぞれの立場から「委員会に貢献したい」「協力していきたい」との意見が多数だされた。特に「このような委員会が設置されたことは喜ばしく、純粋に医療の問題として討議していくことが大事」という意見や、医療資源が限られている地域であることから「ITの活用や医療情報の分析が大切」「限られた中で最高のパフォーマンスを出せるようにすること。そのためにも、市民も含めてオール神栖体制の構築を」「こういう地域だからこそ救急隊の力量が問われており、レベルアップに努めている」という意見、「これだけのトップ企業が集積している地域なのに、なぜ医師不足なのか」はこれから解き明かすべき課題といった発言があった。

② 地域・人口構成の特性について

当市においては「生産年齢人口の階層など若い人が多く、住民票を移さない単身赴任者や季節で働く人たちが大勢いるなど、正確な人口の把握が難しいという特徴がある」「高齢者の罹患率が高いことを踏まえると、若い人が多いことは、現時点の疾患数は少しやわらなくなっているかもしれない」というようなに、統計に表れない人口や高齢化率の地域特性をおさえておく必要性が指摘された。今後の見通し検討においては、罹患率と階層別人口の推移、若手患者数の推計などに留意が必要であると考えられる。

③ 医師確保に関して

医師不足に関しては、神栖市地域においては、大学からの医師派遣が厳しい状況であることが発言された。

「平成16年度の初期臨床研修制度の導入により医師確保環境が激変した。」

「特定の大学ひとつに頼っていると難しい。様々なアプローチをしている。」

「都内大学からは、茨城のことは茨城でやってくれと言われる時もある。人口300万人に医科大学ひとつの本県と、四国のように100万人にひとつの医科大学では、条件が違いすぎると思われる」

「大学医局から鹿島地域に行きたい若い人がいなくなった。ならば、大学としても送る必要はないとなった経緯もある。」

また、医療資源が少ないことによる悪循環として、「救急を受ければ受けるほど、どんどんと送られてくる」というように医師が疲弊したり、当直も多くなるといった働き方、労働環境の課題が指摘された。さらに、子供の教育環境を優先する医師が多い事情も情報提供された。

そのような中でも、当地で医師確保の成功事例や医師にとっての働きたくなる視点として「スキルを発揮できる」「勉強になる」仕掛けづくりと、その情報発信がポイントとの意見が出され、また、連携による受け入れ体制づくりの意義が指摘された。

具体的には、医師1人からスタートし、10年で9人体制までに持ってくることができた秘訣は、「医療機関の魅力を理解してもらうことしかない。具体的には、専門性を生かせるような舞台、スキルを試せる舞台を用意してやること。それをアピールする。」とのことでありいまのところ専門医資格を持つベテランの確保の実績を挙げている。また、医師の立場からは「そこに働きに行くのは、『魅力ある病院に行きたい』『勉強になる』の2つしかない。」こと、そして、多くの症例を診ることができ勉強になるようにするためには、「500床以上の病院がふさわしいが、現実にそれがなければ、専門毎に集合体制を創る、連携を図ることが有効」との視点も発言された。

医師不足という環境にありながらも、救急のように「むしろ、現有勢力でどのように対応していくかを考え、それで救急を見直している。死亡率が全国よりも高いところをターゲットに頑張る。」というように現状改善に専念している状況である一方、救急にとっては、「ゆとりを持って診療できる体制を創らないと長続きしない。」との状況が紹介された。「ゆとり」という視点が人を惹きつける可能性に注視すべきとの助言もなされた。

④ 地域連携・分担について

当委員会の中心的な検討課題のひとつである市内における医療資源の不足と市外医療機関との連携による体制づくりの意義等について、いくつかの提言がなされた。

「市内の現状を見ると、済生会病院の小児科診療があり小児科分野に課題は見当たらないが、産科を扱う機関は市内に一ヶ所、常勤医が1人であり、将来が心配。また、病院と病院の間の連携をもっと密にすることが必要。」

「将来はともかく、とりあえずは産科は鹿嶋に行っているのが実情。市民感情は違うかもしれないが、神栖だけで完結させるというのは非現実的。一般の人にはわかりづらい事だが、例えば、整形外科も細分化されているので、各病院が同じことを同じレベルで何でもやるのではなく、各病院が強みをもって、それをネットワークしていくべき。」

「医師の確保は、総数ではなく、医師の質が問題であり、レベルを上げないといけない。」

「現状でも、循環器救急体制整備に当たっては、鹿嶋市の医療機関にも参画してもらっており、それを前提に協力体制を整備中。一方で、波崎地区から鹿嶋までは1時間かかるので、時間を争う場合には、千葉方面に頼っているのが実情。」

「歯周病菌などが心筋梗塞、脳梗塞、誤嚥性肺炎の原因となるなど口腔ケアは高齢者の疾患に関係が深いことを考えると、医科歯科連携は極めて大切なこと。」

現状においてやむを得ず市外の医療機関に頼らざるを得ないのが実情で早急に市内の体制整備を図る必要があるものなのか、将来にわたっても当該体制で十分なのかといった判断、同一疾患でも重症度あるいは救急、急性期や慢性期、回復期、在宅治療などの段階や局面毎に、市内でどこまで対応していくべきなのかの見極めなど、今後のさらなる論議と整理が肝要である。

また、医療連携という視点でも、各病院が高いレベルをもつ分野でのネットワークにより全体をカバーする視点や単なる医師総数ではなく医師のレベルを上げる必要性と質の高い医師の確保、教育への取組、口腔ケアの重要性と医科歯科連携が大切といった提言にも留意していくことが必要である。

⑤ ITの活用について

地域医療にとって、IT活用による課題解決の可能性は高いので、IT基盤整備だけでなく救急分野での活用や、ネットワークが大事であり、「システムを含めたネットワークを考えていくこと」といった指摘がなされた。

⑥ 市内の地域偏在・格差について

市内の地域の視点から、「波崎地域は、病院（診療所）が少なく医師数も少ないことから、神栖地域との医療体制の隔たりが心配である。また、土合地区からでも神栖済生会病院まで車で20分（波崎東部地区からは、30分）かかり、救急時に病院までの時間がかかることから考えていただきたい。若い人にとっても医療は、重要な課題である」との課題認識が示された。

⑦ 市民参加の医療体制整備の大切さについて

医療資源が少ない地域だからこそ、「完璧な医療体制を目指すには限界」もあり、市民の立場から「頑張っている医師を温かく見守る」ことや「市民自ら予防に力を入れて取り組む」ことの意義、そして「市民への啓発活動」が必要という指摘もなされた。

第1回 神栖市地域医療体制検討委員会出席者名簿

日 時 令和元年7月2日(火)
19時～
場 所 神栖市 保健・福祉会館
研修室

○ 神栖市地域医療体制検討委員会委員

(敬称略)

	区分	氏名	出席者	備考
1	茨城県立中央病院 名誉院長	永井 秀雄	永井 秀雄	神栖市地域医療体制検討委員会 委員長
2	鹿島医師会長	松倉 則夫	松倉 則夫	松倉中央クリニック院長
3	神栖医師会長	武藤 隆雄	武藤 隆雄	武藤小児科医院院長
4	神栖市歯科医師会長	石橋 英郎	石橋 英郎	セントラル歯科医院院長
5	成田赤十字病院	板寺 英一	板寺 英一	神栖市出身
6	東京医科歯科大学医学部附属病院	内村 祐之	内村 祐之	医療情報部 特任講師
7	神栖済生会病院 院長	高崎 秀明	高崎 秀明	
8	神栖済生会病院 副院長	西 功	欠席	筑波大学附属病院 神栖地域医療教育センター部長
9	白十字総合病院 院長	鈴木 善作	鈴木 善作	
10	鹿嶋ハートクリニック 院長	黄 恬瑩	黄 恬瑩	
11	市民代表	菅原 敏晴	(代理) 土合本町中区長 春日 保志	土合西区長
12	潮来保健所長	石田 久美子	石田 久美子	
13	鹿島地方事務組合消防本部 消防長	伊藤 幸一	(代理) 救急救助課長 武藤 隆	
14	鹿島地方事務組合消防本部 メディカルアドバイザー	鶴岡 信	鶴岡 信	

○ 随行者

1	潮来保健所	地域保健推進室長	柴山 清美
2	神栖済生会病院	再編統合推進室長	江寺 隆広
3	神栖済生会病院	総務課主任	小松崎 政之

○ 神栖市

1	市長	石田 進
2	健康福祉部長	畠山 修
3	医療対策監	藤枝 昭司
4	健康福祉部 長寿介護課長	日高 篤生
5		課長 高崎 正己
6	地域医療推進課【事務局】	課長補佐 石川 賢一
7		係長 岩井 栄祐
8		主事 清田 麻由子